

『ひょうご歴史研究室紀要』別冊
刊行記念シンポジウム

「近世播磨のたたら製鉄 -その実像を探る-」

紀元前にヒットライトによって始められたとされる製鉄技術。アジアでは漢代中国で発展し、日本では古墳時代後期六世紀の中葉に行われたことが確認されています。中国山地東端に位置する兵庫県播磨地方は山砂鉄を豊富に包含する地層に恵まれ、歴史的に、広島・島根とともに主要な生産拠点として知られています。その実像は、兵庫県指定史跡である天児屋鉄山跡（宍粟市）など考古学による発掘成果によって明らかになっています。その一方、文献による調査研究も、先人たちによって進められてきましたが、継承されず、総合化される機会を逸してきました。

こうした状況を顧みて、ひょうご歴史研究室では平成27年4月の開設以来、播磨のたたら製鉄に関わる総合調査を進めて来ました。その成果として、「千種屋」「鳩屋」などの鉄山師による播磨のたたら製鉄の実態解明に迫る史料を収めた、『ひょうご歴史研究室紀要』別冊「近世播磨のたたら製鉄史料集」を刊行しました。この度、これを記念したシンポジウムを開催します。

江戸時代は、日本独自の製鉄法として「たたら吹製鉄」が完成した時代として知られています。このシンポジウムでの、ひょうご歴史研究室の研究員による講演と議論は、その実像を探る貴重な機会となることでしょう。

- 講演①** 土佐雅彦（客員研究員）「中国山地のたたら製鉄の技術的変遷」
講演② 笠井今日子（共同研究員）「「鉄山請負御用留」の語るたたら製鉄」
講演③ 大槻 守（客員研究員）「「鉄山一件 -山方役所留記-」の語るたたら製鉄」
パネルディスカッション司会 村上泰樹（協力研究員）
藪田 貫（ひょうご歴史研究室長）

参加申込方法

- お一人様往復ハガキ1枚で、①9月19日たたら製鉄シンポジウム参加希望、②郵便番号と住所、③名前（フリガナ）、④電話番号、⑤友の会会員の方は会員番号を記入のうえ下記宛てにお送りください（令和2年9月2日（水）【必着】）。応募者数が定員を超えた場合は抽選とし、その結果を申込者全員にお知らせします。

- 宛先
〒670-0012 姫路市本町68
兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室

会場

兵庫県立歴史博物館地階ホール
（感染症対策として全100席のうち50席のみを使用）

開催日時

令和2(2020)年9月19日(土)
13時00分～16時30分

（入場無料／12時30分開場／往復ハガキによる事前申込）

主催

兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室

- 館内1階の「歴史工房」にて、今回翻刻、刊行された館蔵資料等を展示しています。
- 入場にあたっては特別展と同様、コロナ感染症対策をとります。
- 感染症の拡大により、急遽中止になる可能性もあります。

問い合わせ先

兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
〒670-0012 姫路市本町68 ☎079-288-9011